



社会総がかりの教育へ

校長 田邊 雅也

毎々が「師走」のよう

師走です。かつては、冬の季節、僧侶を招いて読経などの仏事を行う家が多かったため、お坊さんが忙しく走り回ることとなり、「しがはせる」から「しはす」になったといえます。12月は、お正月を控えて一番忙しい一年の最後、やることが多いので本当にずっと走りまわっているようなイメージです。

学校だより11月号では、日本の教育が過渡期を迎えていることをお伝えしました。昭和・平成から続く教育活動も、コロナ禍で転換点を迎え、毎々が「師走」のようでした。しかし、未来を担う子供たちに、必要な力をつける試行錯誤を通し、子供たちの学ぶ姿から手ごたえを感じ、忙しくも充実した日々になっていると感じます。

技術革新により教育が変わる

11月、メイあさかセンターのご協力により、6年生が、マレーシアの小学生とオンラインで英語を使って交流する授業がありました。世界の子供たちと、リアルタイム（時差1時間）でつながることは、以前は考えられませんでした。なぜ、英語を学んでいるのか、なぜ、国際理解が必要なのかを、考えさせられた子も多くいたと思います。

朝霞市では、iPadが導入され、はや3年になろうとしています。授業改善もかなり進み、子供たち一人一人のデジタル・リテラシーはもちろん、学びの質が格段に上がっています。保護者・地域と「共育・共創」する教育活動も数多く生まれました。ある市では、不登校の子供たちの学習を支援するため、インターネット上の仮想空間（メタバース）を活用した実証事業を始めています。技術革新により、日本の教育は大きく変わっています。

デジタル・シティズンシップ教育

一方で、ICT環境での技術革新が進むにつれ、情報モラルの観点から、「親がコントロールができないので禁止してほしい。」という考えがありました。しかし、デジタルの利活用が日常化し、生成AIを使いこなす方もたくさんいらっしゃいます。学びも、遊びも、コミュニケーションも、子供も大人も関係なく、社会全体で、デジタルの積極的な活用について、本気で考えなければならなくなりました。デジタル社会における「善き社会の担い手」を育成するという、「デジタル・シティズンシップ教育」を根付かせることが求められています。

六小では、12月、「マイポリシー」として、子供たちが今のデジタル環境の中で、どう考え、どう行動すべきかを考えます。子供も、倫理的、文化的、社会的、健康的な問題を理解し、責任をもち、ポジティブにデジタルを利活用していくための取組です。学校教育でも家庭教育でも、子供たちの利活用の様子を、きめ細やかに見守りつつ、社会のニーズや未来を見据え、変わらなければいけません。

SAMR（セイマー）モデル Ruben R.Puenteduraが提唱（2010）

ICTが、授業に与える影響を示す尺度として、4つの頭文字から、「SAMR（セイマー）モデル」という言葉が広がっています。これは、技術革新により、学校教育が変わっていく方向性だと捉えています。

強化	● Substitution ● Augmentation	(代替) (拡大)	…アナログ（紙）でできたことをデジタルで代替する段階です。 …デジタルの特性を生かして、学習効果を拡大させる段階です。
変換	● Modification ● Redefinition	(変形) (再定義) 未来の学び	…授業デザインがこれまでとは変容した新たな学びです。自律的で自己効力感を高め、学びを深化させる段階です。 …実社会の課題解決や新たな価値を創造する学びです。保護者、地域と協働し、SNS等も活用しながら学ぶ段階です。

六小では、2年前は「S」の段階でしたが、今は、「A」と「M」の段階で、オーセンティックでウェルビーイングのある授業を通して、学びを「強化」できるよう、試行錯誤をしています。「R」は、今後、全国的にも期待される学びです。保護者や地域はもちろん、社会総がかりで教育が展開され、これまでの学びが「変換」されていくでしょう。

社会総がかりの教育へ

教育の過渡期を迎えています。教育の質を維持・向上させるために、学校の仕組みを変革しなくてはなりません。そのひとつとして、令和6年度4月より、児童の登校時刻を8:10から8:20に変更したいと思います。現在、登校時刻は、8:00から8:10ですが、教職員の勤務開始時刻が8:30であるため、登校時点で、全教職員が校内に全員揃っていない現状があります。安全面の観点から、昇降口の開錠時刻を8:10とし、校内の体制を少しでも万全にしていきます。通学班の集合時刻を10分間、遅らせることとなります。

未来を担う子供たちを育む学校として、さらなる授業改善、行事の精選、おたよりのペーパーレス化、中学校での部活動改革等、教育改革を強く推進することが求められています。「社会総がかりの教育」の実現に向け、少しずつですが動き出していますので、今後とも、ご理解とご協力の程、よろしく申し上げます。